

「秦野市公共施設等総合管理計画（案）」に対する
パブリック・コメント手続きの実施結果について

- 1 意見募集期間
平成29年2月1日（水）から2月28日（火）まで
- 2 意見募集の周知方法
広報はだの2月1日号及び市ホームページ
- 3 計画（案）の公表方法
 - (1) 市ホームページへの掲載
 - (2) 公民館、図書館及び駅連絡所における閲覧
 - (3) 本庁舎行政情報閲覧コーナーにおける閲覧
 - (4) 公共施設マネジメント課における閲覧
- 4 意見提出の方法
郵送、FAX、電子メール及び持参の方法による
- 5 提出された意見の内容及び取り扱い等
 - (1) 提出された意見書の数 2通
 - (2) 提出された意見、提案等の件数 11件
- 6 提出された意見、提案等の件数

内容分類	件数	対応区分			
		A	B	C	D
① 全体に関する事	1				1
② 第1章に関する事	4	1	1	1	1
③ 第3章に関する事	6	1		1	4
計	11	2	1	2	6

(対応区分)

- A：意見等の趣旨等を計画に反映したもの
 B：意見等の趣旨等は既に計画に反映されていると考えるもの
 C：意見等の趣旨等を計画に反映することは困難だが参考とさせていただくもの
 D：内容に関する質問・感想等その他のもの

秦野市公共施設等総合管理計画（案） パブリック・コメント提出意見に対する回答及び対応

番号	計画(案)の該当箇所	意見の概要	回答及び対応	区分	備考
1	全体	<p>この計画は<u>全体的にマイナス思考</u>で、前向き思考ではない。</p> <p>「将来、人口が減る→税収が減る→歳入が減る→資金が確保できない→だから公共施設を減らす」というのが、この総合管理計画案である。</p> <p>「<u>ない袖は振れぬ</u>」という表現があるが、<u>ないのは金ではなく、知恵を出さない、汗をかかない（労力を注がない）の「ナイ」</u>である。知恵を出し、労力を惜しまず働けば、金の不足に因る問題の多くは解決できる。</p>	<p>本計画は、厳しい財政状況が続く中、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要であるとして、公共施設等の総合かつ計画的な管理を推進するため、総務省から、全国の地方公共団体に対し、計画の策定が要請されたものです。</p> <p>本市は先駆けて公共施設の更新問題等に取り組んでいますが、今後も、直面する課題に備えるとともに、将来にわたり必要性の高い公共施設サービスを持続可能なものにするため、様々な手法や新しいアイデアを駆使し、公共施設のマネジメントを進めます。</p>	D	
2	第1章 公共施設等の現況及び 将来の見通し 2 人口の状況	<p>P8のグラフですが、注釈で「年齢不詳者がいるため、合計100%にならない」という説明は分かりますが、このような百分率の帯グラフを使うのであれば、凡例に「年齢不明」としてグラフ上に表記したほうが自然です。</p>	<p>年齢不詳者数をグラフに反映します。</p>	A	
3	第1章 公共施設等の現況及び 将来の見通し 2 人口の状況	<p>P10のコーホート分析のスケールを変えたグラフにおいて、赤い丸の赤線グラフの変動は見たところ数%程度（の山）ですが、このことから転入増や子育て世代の流入とまで言い切って良いのかどうか疑問です。</p> <p>それと”5歳から10歳”と言っていますが、実際は山谷があるため”から”という言い方がいいのかどうかという疑問もあります。（もっとも、分析者の視点次第ですが）</p> <p>合わせて、P11の「26～35歳増減率推移グラフ」のコメント中”こちら、子どもはプラス傾向にあることから…”というのは、どこから言えるのかお教え下さい。</p> <p>さらに、”本市の人口減少の本質を検証する必要があります”と謳うならば、近隣市町村のコーホート分析の結果も合わせて載せて、その差異（秦野市に特徴的な傾向なのか…）がどの程度なのかまで入れた方が、より詳細にみる事ができたと思います。</p>	<p>この分析は、コーホート要因法により、同じ年に生まれた人たちの数の変化から、本市の人口問題の構造について検証したのですが、「5歳から10歳」の子どもにプラスの傾向がみられましたので、それと同時にその親（世代）も増加している、と推測をしています。</p> <p>しかし、その親世代とみなすことができる「28歳から35歳」、また、「35歳から45歳」では、社会減の傾向が強まっており、前段の推測を踏まえると、その親の増加数を越える多くの単身者が転出等している、と推測をしているものです。</p> <p>人口減少については、公共施設の更新問題に限らず、本市にとって大きな課題です。様々なデータを活用した分析等も必要であると考えますので、今後も全庁的に調査・研究していきます。</p>	C	
4	第1章 公共施設等の現況及び 将来の見通し 3 財政の状況	<p>P15の「投資的経費の推移グラフ」ですが、H21、H22あたりを境に再び漸増の傾向が見られますが、これはどのような事情によるのでしょうか？</p>	<p>平成21年、22年においては、リーマンショックの影響を受けた景気悪化の影響により税収が減少し、また、高齢化に伴う社会保障関係経費の増加等により、投資的経費に充てられる財源は減少しました。</p> <p>それまでも投資的経費は年々抑えられ、必要とされる老朽化対策や時代に沿ったニーズへ十分な対応ができませんでした。そのため、それまでの投資への抑制が総じたことによる反動がみられるとともに、景気の動向や財源のバランスを見据えながら、カルチャーパーク再整備をはじめとした都市基盤整備など将来に必要な投資を行っています。</p>	D	
5	第1章 公共施設等の現況及び 将来の見通し 3 財政の状況	<p>P21では、”上下水道は一般財源で更新しない”とあります。</p> <p>しかし、将来費用から考えると決して無視できない数字ですが、この「上下水道」部分に特化したページなり記述が欲しかったです。</p>	<p>インフラ種類別の整備状況、将来費用試算結果を、資料編に掲載しております。今後は、個別施設計画にて具体的な取組を進めます。</p>	B	

番号	計画(案)の該当箇所	意見の概要	回答及び対応	区分	備考
6	第3章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針 1 ハコモノの マネジメント	本計画では、原則として小規模の公共施設は中規模の施設に統合するという。小規模の公共施設は市の中央部から離れた地域(遠隔地、奥地、へき地)、例えば菖蒲、柳川、沼代、千村(台)、横野、羽根、菩提、蓑毛、名古屋、善波、鶴巻東部、上大槻、栃窪等に多いため、これらの地域では公共施設が激減し、又は皆無になり、公共施設に縁がない状態になる。その結果、これらの地域では市民活動が不自由になり、住み心地が悪くなり(特に高齢者、子育て世帯)、人口減少が促進される。これでは「住んでよかった秦野」は全く看板倒れ、空文になってしまう。 小規模の公共施設は原則として中規模の施設に統合と言った、画一的な、硬直した扱いをするのではなく、各施設の実情、環境、性格等を考慮して、住民が不便、不自由、不利益を受けることがないように、極力努力すべきである。このような面に知恵を出し、労力を注ぐべきである。	個別施設計画となる「秦野市公共施設再配置計画」(平成23年3月策定)に対するご意見です。 なお、すべての地域に、等しく公共施設を配置することは大変困難です。「秦野市公共施設再配置計画」では、施設の集約イメージについて、小中学校を中心としたコミュニティ拠点エリアを設定することで、できるだけ地域住民の利便性を損なうことにならないように、廃止する施設の機能は、近隣の施設で補完するなどにより、極力維持することを掲げています。 また、地域住民の活動のために利用されている施設については、地域住民の自発的な意思による運営を可能とし、地域にとって必要となる公共施設サービスの提供・維持を目指しています。	D	「秦野市公共施設の再配置に関する方針」は、平成22年8月18日から9月17日にかけて、また、「秦野市公共施設再配置計画」は、平成23年2月17日から3月18日にかけて行われたパブリックコメント手続きを経て、内容を決定しております。
7	第3章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針 1 ハコモノの マネジメント	施設の統合は小学校にも適用されるようだが、小学校を統合すると、通学区域が当然拡大する。そうすると、低学年児童、特に新一年生に、遠距離の通学を強いることになる。これは未だ体力の低い低学年児童に大きな負担になる。乗用車での送迎は親の負担になるだけでなく、道路の渋滞を増やすから、避けなければならない。通学バスの利用も考慮できるが、結局市の財政にも家計にも負担になる。この見地から小学校の統合には慎重な考慮が望まれる。	個別施設計画となる「秦野市公共施設再配置計画」に対するご意見ですが、記述内容は事実と異なります。 「秦野市公共施設再配置計画」では、現在の小中学校や公民館等を中心とした地域コミュニティ拠点形成を進めることを目指しており、小学校の統合は計画しておりません。	D	
8	第3章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針 1 ハコモノの マネジメント	公共施設の運用は現状でも、かなり硬直している。施設の利用が管轄部署により厳格に区分けされ、そのために利用効率が低下している。児童館、こども館は未成年でなければ利用を許可されず(原則として)、利用率が極端に低い所が生じていると聞く。	P28、29などの基本的な方針において、全市的、総合的な視点から、施設の多目的な利用の可能性や効果について検討し、柔軟性を持った施設活用による多機能化を進める「既存の枠組みを超えた施設の多目的利用」や、利用者の意向や実態、費用対効果などを的確に把握し、柔軟かつ弾力的に対応することによって、施設の利用率や稼働率の向上に努める「効率的な施設サービスの提供」を掲げています。	C	
9	第3章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針 1 ハコモノの マネジメント	一例として本町の「はだのこども館」は、かつて未成年でなくても利用できたのを、近年未成年の利用に限定したために、平日日中の利用率が極端に低下し、成人の利用を呼びかけているとさえ聞く。将来計画でも硬直した運用がなされれば、施設の利用効率が低下し、施設数を削減しても施設毎の単価が上昇して、却って歳出の増大を招くであろう。	「はだのこども館」に関する記述は、事実と異なります。 成人も利用できた青少年会館の頃とほぼ同数の利用があります。	D	
10	第3章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針 1 ハコモノの マネジメント	P41では、「コミュニティ拠点形成の具体的イメージ」として、2つのエリアが載っていますが、その他のイメージはあるのでしょうか?あるのであれば、それも提示した方が当該近隣住民に伝わりやすいと思います。	本欄は、ハコモノの個別施設計画となる「秦野市公共施設再配置計画」の内容を抜粋して例示しているものです。 なお、再配置計画では、その他の地区イメージも提示していますので、引用先に誘導するような表記を行います。	A	
11	第3章 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針 2 インフラの マネジメント	P47では、「橋りょうも含め、道路上を広場や空間として捉える占有(活用)を認めるなど、新たな自主財源の確保について研究を進める」とありますが、具体的にはどのようなイメージなのでしょう?例えば賃料を払う代わりに、一定期間・一定スペースの占有を認めて、路上販売などを認めるというイメージでしょうか?	ご指摘の通り、例えば、地域の活性化につながる歩行空間における賑わい創出や、イベント等の柔軟な活用に対応可能な道路空間の創出など、現段階では法的な制約がある部分もありますが、インフラ施設であっても公共施設マネジメントの視点を持った、創意工夫による豊かな道路空間づくりに向けた調査・研究を進めます。	D	

(対応区分) A: 意見等の趣旨等を計画に反映したもの
C: 意見等の趣旨等を計画に反映することは困難だが参考とさせていただくもの

B: 意見等の趣旨等は既に計画に反映されていると考えるもの
D: 内容に関する質問・感想等その他のもの